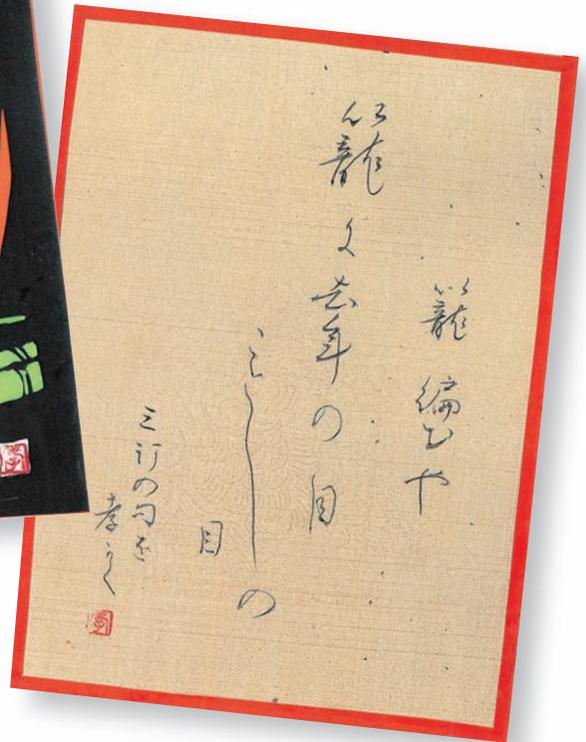


岩手郡医報

高橋 孝先生 書



書:高橋 孝



岩手郡医師会

No.92/2009年6月

目次 CONTENTS

巻頭言 岩手郡医師会 会長 及川 忠人	1
総会議事録 平成20年度第2回岩手郡医師会通常総会	2
総務会議事録	11
役員会議事録	11
各種行事報告	12
特定健診体制への取組の経過	16
エッセイ	17
故 佐藤 誠 先生 弔辞 (追悼の言葉)	18
21年度岩手郡医師会等行事予定	21
21年度岩手郡医師会 事業計画	22
21年度岩手郡医師会 運営基本方針	22
各担当別事業計画	23
TOPICS	24
第61回岩手県医師会親睦野球大会の参加について	26
会員の入会・退会・異動等	27

表紙Photo 高橋 孝

切り画は「箕」を編んでいるところです。
「箕」は、竹で編んだ農機具で、上下に振り動かしてチリやホコリを取り除いたり、小豆の選別や殻を取ったりするのに使われます。

かなは「箕」について良い詩がなく、「籠」について書いたものです。

「籠あむや 籠に去年の目 ことしの目」
三行の句を孝かく

巻頭言



「平静の心(Aequanimitas)」とは

会長 及川 忠人

我々医療従事者に最も求められる資質とは何であろうか。平静の心は1889年オスラーがペンシルバニア大学を去るときの卒業式の告別講演で述べたものであり、オスラーが40歳の時のものなそうです。オスラーは医師にとってまず第一に「沈着な姿勢、これに勝る資質は無い」と述べており、「沈着な姿勢」とは、状況如何にかかわらず、冷静さと心の落ち着きを失わないことを意味し、嵐の真ただ中の平静さ、重大な危機に直面した時の判断の明晰さ、何事にも動じない様子、感情に動かされない態度を意味すると述べております。さらに「成功をおさめているとき、あるいは失意に打ちひしがれている時を問わず、平静の心を持つことは至難のことではあるが、それにもかかわらず、それは必要な心のあり方である」と賢明なローマ皇帝アントニヌス・ピウスが自らの人生観を要約した言葉として、「平静の心(Aequanimitas)」を座右の銘としたことを引用しております。

我々の医療現場ではこのような追い詰められることは少ないが、昨今の医療情勢から医療従事者自身も犠牲になる可能性の高い疾病や災害が増加しつつある。このような場合には、災害救助法にみられるような災害現場に赴くリスクを補償することに準じる身分保障が必要になることは当然と考えるべきであるが、それも各自の医師の判断と良識に任される場合には、在る程度の犠牲が必要であり、それを如何に考えるべきかが大きな課題でありまた難題でもあります。

昨今地域医療崩壊が叫ばれ医療の現場が厳しい社会的経済的環境等に置かれ、地域医療に奉仕しようとする医師の気構えが次第に薄くなりつつあることは、淋しいことである。地域社会の安全と安心の支えを使命として守ってきた地域医療がその存否の瀬戸際に置かれていることに心を留めて、地域医療の持続・継続を図る努力に加え地域住民の視線を重視して議論を踏まえてこそ、地域医療の維持・発展が与えられると信じたい。

日常臨床の現場では「平静の心」が最も必要な時代に突入していると考え、「平静の心」大切にしながら、郡医師会会員諸先生方の地域に置ける医師会活動と併せ臨床活動の質的向上を目指すことを新年度の目標として医師会活動を歩み出したいと思えます。

■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ 総 会 議 事 録 ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

平成20年度 第2回岩手郡医師会通常総会

招集通知日：平成21年1月9日(金)

日 時：平成21年2月7日(土)

15：30～

場 所：ホテルメトロポリタン盛岡

本館 4階 姫神の間

総 会 員 数：93名

出席会員数：31名

委任出席数：46名

司会・開会：理 事 高橋 邦尚

議 長： 飯島 仁

議事録署名人：田村 公一、山田わか子

閉会挨拶：副会長 栃内 秀彦

■■■■ 会 長 挨 拶 要 旨 ■■■■

岩手郡医師会長 及川 忠人



昨年秋にアメリカから始まったリーマン・ブラザーズの倒産から始まった世界同時不況は1929年の世界大恐慌以来の大不況ということでその影響がすでにではじめ、日本の自動車業界のみならず、多くの日本企業が激動の社会経済的状况におかれております。

そのような社会状況の中で、我々の堅持しようとする地域医療にも大きな陰りが出て参りました。その一端が県立病院の無床化を中心とした改革の課題であります。特に我が医師会が関わりを持つ県立沼宮内病院の病床ゼロ計画は大変な影響を与えるのではないかと危惧の念を持っております。医療局と岩手町内関係者との協議の結果は新聞報道等もなされ、極めて厳しい状況が

想定されております。医師不足が我が県にも大きな課題となり、それらの流れから小規模病院の無床化が計画実施されるような方向の様ですが、それが実施されますと岩手町内に一般病床が町内の某診療所が持つ4ベッドのみになってしまい、せめて診療所規模の19病床を岩手町の中に残す工夫があつて欲しいと願うのみであります。これらの県立病院病床削減の課題は岩手町だけの課題ではなく、岩手郡医師会全体の課題であるとの捉え方が必要であり、地域住民と行政サイドともよく話し合いながら要望を早くまとめることや郡医師会としての意見情報の共有化が必要であるのではないかと思います。

さて、県立沼宮内病院の無床化は聞くところによれば、1年1ヶ月後の計画であります。かなり新聞紙上をにぎわせておりますが、岩手郡医師会としては無床化反対の請願書にサインをすることのみが、これまでの具体的活動であります。先日県立病院運営協議会に出席致しましたが、紫波医療センターと沼宮内病院の無床化については、医師不足の結果の大きな流れが深刻であることが感じ取られますが、今後の我が医師会としての立場が問われてくるのではないかと心配して折る次第です。

地元の開業医の当直・宿直支援体制やOpenベッド体制への移行は、現在のよう

な医師不足の環境下ではかなり困難な課題ではないかと静観しているところであります。

本日の平成20年度岩手郡医師会第2回通常総会では、平成21年度の活動計画案ならびに、平成21年度会計予算案の審議がございますので宜しくご審議をお願い致します。

さらに、この総会では平成21年への特定検診事業の見直しについて、協議の場での会員各位のご意見を頂きたいと願っております。特に平成20年度は特定検診が滝沢村と雫石町との集合契約になっていることから、その見直しが必要となりますので、建設的な意見もあわせてご審議をいただきたいと思っております。これまでの特定健診事業にあっては、様々な課題がありますが、それらの多くの課題を整理して、少しでも前進する形になることを願うものであります。

さて、厳しい経済社会環境の中で、今年の春は3年ぶりの介護保険改定の年になります、すでに大枠は発表になっておりますが、介護権料の算定が約3%のアップになり、これまで人件費がかなり抑制されてきたことを振り返りますとようやく明るい兆しが見えてきたのではないかと考えたいと思っております。特に回復期リハビリテーションを終了し、在宅復帰する場合の運動機能の低下は以前から指摘されてきたことですが、短期集中型リハビリテーションが実際に取り入れられることとなります。いずれにしても、病院から在宅へのサポート体制の第一歩が今年の春から実施されることになったことは極めて重要であります。医療保険とかかわるリハビリテーション医療の分野と介護保険とのソフトランディングとでも言い表せる方向ではないかと思っております。

「感染症」に関わる映画が最近話題になっております。新型インフルエンザ対策について若干の状況をお知らせしたいと思います。先月1月26日午後7時から盛岡市保健

所401研修室において盛岡圏域新型インフルエンザ対策連絡会議が開催されました。岩手医大の桜井準教授より「新型インフルエンザと地域における備え」と題する講演を聴き、盛岡圏域インフルエンザ対策連絡会議設置要項（案）が承認され、体制部会が盛岡市医師会、研修部会に岩手医大の桜井先生を中心に検討を進めることが承認されており、実務段階での準備に入ることになっております。今後3月、5月各医療機関の対策対応について検討する方向であります。

第6回の岩手郡医師会役員会において、各医療機関での対応の内、各医療機関に対して、休祭日当番医予算から封じ込めPPEキットを供与することが承認されております。岩手郡医師会としては3月中に新型インフルエンザの講演会を行い、そのキットの使用方法等の説明を合わせて行いたいと考えております。

地域医療連携についてですが、現在、岩手県県央保健所が中心となり、平成20年度盛岡圏域医療連携推進プランを策定しております。先月の1月28日に盛岡圏域医療連携推進会議が開催されて推進プランの検討がなされました。医療連携は主なる疾病又は事業ごとの医療連携が検討されております。つまり、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病の4疾患と救急医療、災害時の医療、僻地医療、周産期医療、小児救急医療、うつ対策の6事業を主な疾病と位置づけ、医療機関の有する機能を明確化するとともに、役割分担と連携を促進して、患者の視点に立った地域の医療連携体制の構築が求められております。岩手郡医師会の所轄地域は5市町村に及び広大な地域ですので、これらの地域医療資源と地域特性を加味しながら、今後の地域医療連携体制を強化・支援する必要があります。実は今回の



県立沼宮内病院の病床削減 Z E R O化が問われております。それらを地域連携の拠点としてどのように捉え、その代わりの機能をどのように形成していくか等、多くの課題が残されていると思われま

す。県立病院の一連の改革計画の一連のことは、2006年岩手県医師会グランドデザインの中でも論議されたものであります。しかし、昨今県立病院における医師不足がこのような計画を検討せざるを得ない状況に追い込んだのではないかと思います。これらの課題は一朝一夕に出来た課題ではなく、長年の課題の集積とも言うべき問題が潜んでいると思われま

す。地域住民の責任もありますが、それにも増して「官僚体質・役人体質というべきか」そのような体質や無責任体制が、何の自己評価もなされず

に改革もなされず、放置され、さらに加えて労働組合運動等の対応する中で長年、矛盾が集積した結果とも言えなくもありません。それにしても約5年前に38億円の経費で建設されたものが、全く無用の長物になることを誰が予想したで

ありま

しょうか。ここで地域医療は地域住民が主人公である大切なことが忘れられて、行政財政の立場ならびに医師供給体制の立場が中心となり、様々な環境要因がありますが、そのような環境変化に対する努力の経過が見えてこないところに大きな課題が潜んでいるように

思われま

す。これらの医療崩壊に関わる大きな流れを振り返りますと、小泉政権が残した医療費抑制政策が長年継続された結果がこのような医師不足を生んだ最も大きな原因の一つではないだろうかと思われま

す。保健・医療・福祉に市場主義経済をあてはめて、その誤りに気づかない体質こそ問題であったのではないかと思われま

す。教育・医療・福祉そのものは市場経済主義にあてはまらない社会共通資本であることに、地域住民ならびに一般住民にそのことを理解していただくことをもっと我々が啓発する必要があると思われま

す。しかし、後ろばかりを向いているわけには参りません。地域医療を守ることが我々医師会の最も大きな使命であることを、何回か岩手郡医師会報において述べてきました。このような地域医療崩壊現象は岩手郡医師会だけの問題ではなく、全県下くまなく起こっていることのようにあります。これらの課題は地域住民と行政そして医療提供者側が同じ目線で話し合うことがとても重要なことではないかと思われま

す。また医療についての医療人の意識改革はもちろんですが、我々を取り巻く関係職員の意識改革が重要な位置を占めることになると思われま

す。本日の医師会通常総会ではもう一つの課題として平成20年度からスタートした特定健診のあり方についての検討が協議されることになりました。特定健診事業は多くの課題を持つ事業であり、また様々な意見と見方があるのではないかと思われま

す。岩手郡医師会は5市町村に亘る広範な地域を持ち、それぞれの地域特性と地域文化があります。これらの相異を飛び越えて、大きな共通の方向が見出されて欲しいと願っております。どうぞ忌憚の無いご意見ならびに建設的なご意見をいただければ有り難いと

思っております。

今日、岩手郡医師会が盛岡医療圏の中で果たす役割は何でありましょうか。盛岡市医師会および紫波医師会が盛岡市および矢巾町内で活動をされており、小生はいつもその活動に敬服しております。しかしながら、我々岩手郡医師会の広大な範囲と地域独自の文化と歴史を学ぶ時に、その貴重さをよくよく噛みしめる必要があるのではないのでしょうか。

本年1月20日にアメリカの初の黒人大統領オバマ氏が第44代大統領に就任致しました。その就任演説を読みますと、「変革」をアメリカ合衆国の建国の様々な歴史的事柄に振り返り、建国の精神に立ち返ることを国民に呼びかけている姿が地味でありますが目立ちました。今、日本の政治情勢がその内容・質が問われるような大変にレベルの低い内容が論議されているような気がしてなりません。小生が高校1年の時、43歳のJ F ケネディが就任した時の就任演説も感動であったことを思い出します。

Ask not what your country can do for you -
Ask what you can do for your country -
My fellow citizens of the world;

Ask not what America will do for you -
But what together we can do for the
freedom of man !

「だからアメリカ国民諸君、国家が諸君のために何をなしうるかを問うのではなく、諸君が国家に何をなしうるかを考えよ。世界中の同胞諸君、アメリカが諸君のために何をなしうるかを問うのではなく、我々が共に、人類の自由のために何をなしうるかを考えよ」とあります。

日本も大きな曲がり角にあります、我々岩手郡医師会も大きな曲がり角の在ることを自覚しつつ、新しい年度への準備に会員のご支援とご協力を頂き進んで参りた

いものであります。

本日は、この岩手郡医師会がこれまで歩んできた道のりを、もう一度振り返りながら、地味な活動ではありますが、地域住民に信頼される医師会活動を進めるため、新しい年度への期待を込めながら、この第2回通常総会の役割が決して小さくないことを認識しながら、本会が有意義なものになることを心から期待申しあげ、岩手郡医師会長としての通常総会における挨拶に替える次第であります。本日は宜しくお願い申し上げます。

■■■■ 活 動 報 告 ■■■■

議長が担当部会報告を求め、各担当理事から平成20年度担当部会活動の報告があった。

①総務

高橋邦尚理事より報告があった。

総務は特定健診の進め方を中心に何回か集まりを持ちまして、滝沢役場を中心に滝沢の進め方を紹介して話を煮詰めて参りました。そのうえで、郡全体として特定健診を含めてどのような進め方がよいか協議を重ねました。のちほど本日の協議事項にて皆様のご意見をいただきたいと思っております。

②地域医療

栃内秀彦副会長より報告があった。

及川会長より色々お話ししていただきましたが、私からは、活動の中で鳥インフルエンザの問題が出まして、岩手町の佐々木先生に骨をおっていただいております、県でインフルエンザのために防護服を買ったとか薬を確保したということでしたけれども、我々医師会員に回ってくるわけではなく、県の職員に使うもので、我々は我々でそれを揃えなければならないので、役員

会で協議してインフルエンザを防護する器具等を郡医師会で購入し、今年はそれを郡医師会の全ての医療機関に配布しようということになりました。数的には、最初は少ないと思いますが、救急の予算で会員の皆さんに毎年送れるようにすればよいなと思いました。今年の目標としては、それを購入して皆さんにお配りしていきたいと思っています。

救急蘇生法講習会を、八幡平市西根地区市民センターで行い、だいたい40名前後の参加で、平日開催だったので先生方はあまりお集まりいただけなくて、及川会長と私枋内と森先生だけでしたので、丁度私のところにきている救急部の宮田先生にきていただいて、講演と実地訓練をしていただき、成果はあがったと思っています。

③医療保険

久保谷康夫理事より報告があった。

大きなものが3点あったと思いますが、平成22年、来年からレセプトの電子請求が始まりますが、その講演会を8月に開催しました。今のところは、電子請求について延期するという話はないようですので、そのまま、たぶん実施に移されると思います。たくさん情報が錯綜して不安感のほうに先がたっていると思いますが、基本的にレセコンになっているところは問題ないと考えてよいと思います。ただ手書きのところがどうするかですが、費用対効果を考えるとたぶん電子請求するために、かなりお金がかかりますのでアウトソーシング、ようするに外注になると思います。先般、県のレセプトを請け負っているICSの社長さんとお話ししまして、岩手県では、ICSのようなところが医療機関にパソコンを持って行って、入力して電子請求してくれると思いますので、あまり大騒ぎしなくて

もよいのではないかと感じました。

もう一つは、外来の5分ルールですが、最終的に監査のときにカルテに本当に5分話したのかチェックになりますので、証拠をきちんと残しておいた方がよいと思います。

④産業医

高橋真理事より報告があった。

本日配布された岩手郡医報の12ページにも掲載されておりますが、昨年10月に八幡平市で実地研修会を開催いたしました。八幡平市のセキスイメディカルという立派な工場で、また、講演は公衆衛生の前に循環器科におられた大澤先生に特定健診のことをからめてお話をさせていただいて、充実した研修会だと自負しております。来年度も今年度同様充実した研修会を開催できたらと思っています。

⑤学校保健

山口淑子理事より報告があった。

1月18日に県の学校医学校保健大会が開催されました。岩手郡からの演題はありませんでした。

2月3日に学校保健担当の先生方と話し合いを持ちまして、来年度の活動方針を話し合いました。また、昨日、岩手地区学校保健会がありまして、岩手郡医師会、岩手郡八幡平市歯科医師会、学校現場と集まって、毎年大会をしたり、研修会を開催したりする大会ですが、今後、存続しなくてもよいのではないかとのお話がでましたが、21・22年度は滝沢村の学校保健会が幹事となって続けることになりました。また、皆様にも案内がいくと思いますので、是非この会にも出席いただきたいと思います。

⑥勤務医

高橋明理事より報告があった。

昨年の6月23日に第109回岩手県医師会勤務医部会の幹事会が開催されまして、その時の話題は、まず医療崩壊に関するもので、医師の地域偏在問題が論議されましたが、これは医師会としては対応が難しいだろうということでは進みませんでした。もう一つは、昨今の救急医療とコンビニ受診の問題で、これは結果として生じた急患の受け入れ拒否について、最近も新聞テレビをにぎわしておりますが、救急の取り扱いの返上なんかと密接にリンクしております。いずれ勤務医であれ開業医であれ今後とも、もう一つ目が離せないのはこういう問題が起こった時の死因究明に関する制度、医療安全調査委員会これあるいは事故調査委員会の動向でございます。病院開設者としてまた病院管理者として、今後ともスタッフを安定して確保し続けられるかどうかということに、直結する方向に波及していかなければよいのですが、いずれも目が離せない問題だと思います。

2点目は、医師会の組織率の問題で、私共の団塊の世代までは医師会に入るのはすんなりきていますが、若い世代では医師会離れが著しい状態でありまして開業医はともかく勤務医からみると医師会は魅力のない組織に映っているようです。勤務医にとって魅力ある医師会作りと加入促進がスローガンとしてあげられております。勤務医が誠に少ない当医師会ではありますが、平成21年度にはできれば勤務医の先生方のご意見をうかがう実態調査ができればと思っております。

⑦広報

山口淑子理事より報告があった。

広報は年度に3回発行するというをお約束しました。1回目は7月に出しまして、2号目は今お手元に配布させていただ

いております。2号目が大変遅くなりましたので申し訳ございませんでした。表紙はいつも高橋孝先生に無理にお願いして絵と書を書いていただいております。今回は、佐々木久夫先生のお世話で岩手町の保健師仁昌寺さんから原稿をいただきまして、岩手町でやっている大腸がん健診についてご寄稿いただきました。次号は6月には発行したいと思っておりますので皆様のご寄稿をお願いします。

⑧生涯教育

遠藤哲夫理事より報告があった。

生涯教育では、総会でもいろいろ講演をお願いしておりますが、去年の総会ではハプニングがありまして及川会長に急遽講演をしていただきました。

⑨健康教育

栃内秀彦副会長より報告があった。

今年度は滝沢村で町村民健康講座を開催させていただきました。会報の15・16ページに掲載されております。高橋明先生と紺野敏昭先生に講演していただき、このタイトルもおもしろくて、多数の参加をいただき非常にためになったなと私自身も思いました。わかり易く有意義な講演でしたので、できれば来年度も高橋先生・紺野先生のペアで講演していただきたいと思っております。

⑩医師連盟

及川忠人会長より報告があった。

いつも医師会の会長会議のときに連動して、今日もその連盟の会議をやっております。9月の半ばに解散が近いと一時緊張が走ったわけですが、日本医師会への招集もあったが産業医の研修会と重なっていただけませんでした。今後またご支援いただかな

ればならないと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

活動報告全体について、議長が質問を糺しましたが、特に質問はなかった。

議 事

続いて議長は議事に入った。

第1号議案 平成20年度岩手郡医師会一般会計補正予算(案)について

第2号議案 平成20年度岩手郡医師会休祭日当番医会計補正予算(案)について

第3号議案 平成20年度岩手郡医師会特別会計補正予算(案)について

議長より、第1号議案、第2号議案、第3号議案は関連あるため一括して上程する旨説明があった。

続いて、久保谷康夫理事より、資料2から4に基づき説明があった。

第1号議案および第2号議案並びに第3号議案については、特に質問・意見もなく、議長がこれを諮ったところ、全員異議なく、原案通り満場一致をもって、承認し可決された。

第4号議案 平成21年度岩手郡医師会事業計画(案)

高橋邦尚理事より資料5(P22)に基づき計画の説明があった。

第4号議案について、特に質問・意見もなく、議長がこれを諮ったところ、全員異議なく、原案通り満場一致をもって、承認し可決された。

第5号議案 平成21年度岩手郡医師会一般会計歳入歳出予算(案)について

第6号議案 平成21年度岩手郡医師会休祭日当番医会計歳入歳出予算(案)について

第7号議案 平成21年度岩手郡医師会特別会計歳入歳出予算(案)について

議長より、第5号議案、第6号議案、第7号議案は関連あるため一括して上程する旨説明があった。

続いて、久保谷康夫理事より、資料6から8に基づき説明があった。

説明の後、議長が質問の有無を糺したところ下記の質問があった。

田村公一先生：及川会長になってから、点数の説明会とか、情報の還元とか非常に改善されてサービスも向上していると思っていつも期待しているところであります。予算についてですが、新入会員もあることだし、若い人も入ってきますので、私自身も長く医師会員なのですが、1年に1度のことでも用語もわからないこともあるし、医師会報でもよいので、わからない用語等について解説していただければと思います。この岩手郡医報もいぜんに比べれば詳細になってきたし充実しているなど感じております。

先般、ある会議に出席してやはり予算を組む時期で、そこでは、繰越金のことについて、会員に還元してしまつての予算を組み立ててるような会議の内容でありました。これは確かに会長始め頭が痛いことと思いますが、特別会計と当番医会計で4千万円位の繰越金が出来ているので、今回はどうにもならないと思いますけど、今後やはりプロジェクトチームなどを作って、繰越金の処理について検討していただければと思います。

久保谷康夫理事：一般会計については、特別会計から2百万円繰り入れておりますので、単年でみるとプラスマイナス0で経営的には厳しい状況と言えらと思います。

いま、公益法人改革というのがあって、すでに動き出していますが、だいたい一般

会計としては年間の支出分位は繰越金を持ってもいいですよとなっていて、支出合計がだいたい9百万円位ですので、繰越金が9百万円位あるのが妥当な数字だと思いますので、それからすると少ないと思います。

それから特別会計は1千万円位なののでまいぐあいにもっていくということだと思います。もう一つは、かなり大きなポイントなのですが、休祭日会計は3千5百万円ありますが、新しい公益法人改革では、たぶん岩手郡医師会は一般社団法人になると思いますので、これを0にしなければいけません。0にするまでずっと監査を受けなければならないことになっていますので、あと5年以内に一般社団法人にするか公益社団法人にするか決めなければなりません。

及川忠人会長：3本立ての会計をどうするか、また、繰越金をどうするかについては、これまで方向付けを役員会等でも議論しておりますが、今回の総会にはそこまで手が届かなかったわけですが、新年度は検討してまいりたいと思っておりますので、よろしくご協力をお願いします。

第5号議案および第6号議案並びに第7号議案について、議長がこれを諮ったところ、全員異議なく、原案通り満場一致をもって、承認し可決された。

■■■■ 協 議 事 項 ■■■■

平成21年度特定健診への岩手郡医師会の対応について

高橋邦尚理事より、資料9に基づき説明があった。

議長が平成21年度特定健診への岩手郡医師会の対応について質問・意見を糺したところ下記の意見があった。



柄内秀彦副会長：各地域の代表者を総務に入れて検討委員会を作って検討してはいかがいかなと思います。

及川忠人会長：この課題は簡単にできるわけではありませんが、滝沢と雫石だけが集合契約しており、ほかの市町村はそのまま国保のものを継続しただけになっていますので、その時にいかなければ受けられないことになっており、それだけは何とか次の年度には避けるような形で体制を組ませただけでないかということが、会長としての立場でございますし、また、メタボリックシンドロームに対する啓発も重要ですので、それも併せて岩手郡医師会全体で共通項を持たせながら進める方向で対応したいと考えております。

議長が、提案どおり関係者の皆さんで検討していただくことを、承認いただけるか諮ったところ全員異議なく、満場一致をもって、承認し可決された。

議長が、その他提案事項があるかを糺したところ特に発言はなかった。

以上議事を終了

17時00分 柄内秀彦副会長が閉会を宣言した。

■■■■■■ 特 別 講 演 ■■■■■■

■日時/平成21年2月7日(土) 17:00~

■場所/ホテルメトロポリタン盛岡

本館 4階 姫神の間

座長: 及川 忠人 会長

演題: 「平泉文化と世界遺産」

講師: 盛岡大学教授・平泉郷土館館長

大矢 邦宣 先生



講師プロフィール

おおや くにのり
大矢 邦宣 先生

1944 (昭和19) 岩手県二戸郡一戸町生まれ (当時烏海村西法寺) 64歳

1968 (昭和43) 東京大学文学部史学科東洋史学専修課程卒

10年間、民間会社勤務 (広島・東洋工業株式会社・現マツダで新車企画を担当)

1978 (昭和53) 岩手県教育委員会博物館建設事務所 県立博物館開設準備 (歴史担当)

1980 (昭和55) 岩手県立博物館開館とともに、同館学芸員 (歴史・宗教文化担当)

2003 (平成15) 岩手県立博物館退職 (退職時) 首席専門学芸員 兼 学芸第一課長

25年の県立博物館勤務の間に、岩手県・東北地方の仏像、文化財を調査、企画展多数実施

2003 (平成15) 4~ 一戸町文化スポーツ振興顧問 いちのへ文化スポーツNPO代表理事

2003 (平成15) 7~ 平泉郷土館長

2005 (平成17) 4~ 盛岡大学文学部教授

〈研究分野〉日本文化史、平泉文化、宗教文化財

2005.7~2007 「平泉の文化遺産」世界遺産登録推薦書作成委員として、

ユネスコへの世界遺産推薦書 (申請書) 作成に関わる

2006~ 岩手県・NHK他共催「平泉 みちのくの浄土」展 企画副委員長

(2008.11~2009.4 仙台・福岡・東京で開催)

2008.9~ 再び世界遺産登録推薦書作成委員として、推薦書 (申請書) 作成に関わる

【現職等】 盛岡大学文学部教授 (2005.4~)

平泉郷土館長 (2003.7~)

「平泉の文化遺産」世界遺産登録推薦書作成委員 (2008.9~)

岩手県文化財保護審議会委員 (2004.6~)・副会長 (2006.4~)

このほか盛岡市、大船渡市、奥州市 (委員長)、一戸町 の文化財保護審議会委員

岩手史学会会長 (2008.7~)

NHK東北地方番組審議会委員 (2005.4~副委員長2008.6~)

正法寺文化財顧問 (2003.1~) 天台寺文化財顧問 (2003.6~)

一戸町文化スポーツ振興顧問 (2003.4~)

いちのへ文化スポーツNPO代表理事 (2003.12~)

NPOコンサートキャラバン代表理事 (2003.9~)

(2002、2005年、小澤征爾・ロストロポーヴィチ氏、岩手県内巡回コンサート実施)

【主要著書】 『平泉 自然美の浄土』 (岩手日報連載「平泉 なぜ!?!」2008.7 里文出版刊)

『奥州藤原氏五代』 (2001 河出書房新社刊行)

『図説・みちのく古仏紀行』 (1999 河出書房新社刊行)

『図説・宮沢賢治』 (「賢治を歩く」1996 河出書房新社刊)

『天台寺』 (1987 岩手県立博物館)

『奥の正法寺』 (1987 岩手県立博物館) 他

小澤征爾・ロストロポーヴィチ氏 岩手県内巡回コンサート記録『CARAVAN 2002』『CARAVAN 2005』刊行

■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ 総 務 会 議 事 録 ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

■■■■ 第6回岩手郡医師会総務会 ■■■■

日 時：平成21年1月13日(火)
19:00~20:00

出席者：高橋牧之介、及川忠人、栃内秀彦、
紺野敏昭、高橋邦尚

場 所：奥羽キリスト教センター
(財)みちのく愛隣協会事務室

協議事項

- (1) 平成20年度都道府県医師会特定健診・特定保健指導連絡協議会(12月23日)
- (2) 平成21年度岩手郡医師会事業計画(案)について
- (3) 平成20年度岩手郡医師会一般会計補正予算(案)について
- (4) 平成20年度岩手郡医師会休祭日当番医会計補正予算(案)について
- (5) 平成20年度岩手郡医師会特別会計補正予算(案)について
- (6) 平成21年度岩手郡医師会一般会計歳入歳出予算(案)について
- (7) 平成21年度岩手郡医師会休祭日当番医会計歳入歳出予算(案)について
- (8) 平成21年度岩手郡医師会特別会計歳入歳出予算(案)について
- (9) 平成20年度第2回通常総会(2月7日)について
- (10) 特定健診等についての今後の対応について
- (11) 今後の岩手郡医師会行事予定について

■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ 役 員 会 議 事 録 ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

■■■■ 第6回岩手郡医師会役員会 ■■■■

日 時：平成21年1月20日(火)
19:00~

出席者：高橋 孝、西島康之、及川忠人、
栃内秀彦、佐々木久夫、久保谷康夫、
森 茂雄、山口淑子、高橋邦尚、
高橋 明、紺野敏昭、遠藤哲夫、
高橋 真、植田 修

場 所：ホテルメトロポリタン盛岡
NEW WING 3階「きり」

協議事項

- (1) 平成20年度都道府県医師会特定健診・特定保健指導連絡協議会(12月23日)
- (2) 平成21年度岩手郡医師会事業計画(案)について
- (3) 平成20年度岩手郡医師会一般会計補正予算(案)について
- (4) 平成20年度岩手郡医師会休祭日当番医会計補正予算(案)について
- (5) 平成20年度岩手郡医師会特別会計補正予算(案)について
- (6) 平成21年度岩手郡医師会一般会計歳入歳出予算(案)について
- (7) 平成21年度岩手郡医師会休祭日当番医会計歳入歳出予算(案)について
- (8) 平成21年度岩手郡医師会特別会計歳入歳出予算(案)について
- (9) 平成20年度第2回通常総会(2月7日)について
- (10) 特定健診等についての今後の対応について
- (11) 今後の岩手郡医師会行事予定について

各種行事報告

學術講演会 (米満弘之先生)

■日時/平成21年2月21日(土) 18:00~

■場所/ホテルメトロポリタン盛岡

NEW WING 3階 星雲の間

座長: 及川 忠人 会長

演題: 『在宅医療とリハビリテーション』

講師: 熊本機能病院 理事長 米満 弘之 先生



講師プロフィール

米満 弘之 先生 (医学博士) 専門科: 整形外科・リハビリテーション科

経歴

- 1963年3月 熊本大学医学部卒業
- 1970年5月 熊本大学医学部整形外科講師 (文部教官)
- 1975年5月 熊本赤十字病院整形外科部長・リハビリテーション科部長
- 1981年2月 熊本赤十字病院副院長
- 1981年5月 医療法人社団寿量会熊本機能病院開設

現在の主な役職

- 寿量グループ 代表
- 医療法人社団寿量会 理事長
- 熊本機能病院 総院長
- 指定運動療法施設熊本健康体力づくりセンター 理事長
- 社会福祉法人寿量会 理事長

教育

- 中国広西医科大学客員教授
- 昭和大学医学部客員教授
- 熊本保健科学大学客員教授
- 熊本大学医学部非常勤講師

社会

- 全国地域リハビリテーション支援事業連絡協議会会長
- 日本医師会介護保険委員会委員
- 日本リハビリテーション病院・施設協会顧問
- 全国老人保健施設協会社会保障制度・報酬委員会委員
- 熊本県医師会理事 (地域福祉・介護保険・地域リハビリテーション担当)
- 熊本県地域リハビリテーション支援センターセンター長

著書

- 介護保険とリハビリテーション: 月刊新医療: 1999.9
- 施設でのリハビリテーション: 介護保険とリハビリテーション 日本リハビリテーション施設協会: 1999.10
- 回復期リハビリテーション病棟: 日本リハビリテーション病院・施設協会: 2003.10
- 医療従事者のための回復期リハビリテーション病棟導入・運営マニュアル60: 日本医療企画: 2003.4
- これからのリハビリテーションのあり方: 青梅社: 2004.1
- 最新整形外科学大系4「リハビリテーション」: 中山書店: 2008.6 他

講演要旨

「在宅医療とリハビリテーション」

熊本機能病院理事長 米満 弘之 先生

高齢社会の到来とともに寝たきり高齢者、認知症高齢者が増加しさらに高齢者医療費の増加や長期入院高齢者の増加が目立つ昨今である。これらの中で最も課題となる疾患群は、特に生活習慣病、認知症そしてうつ病等の疾病をはじめ廃用症候群の増加や高齢者の生きる尊厳の低下が目立つようになってきている。これらの総称を老年症候群というが、病気へのアプローチも大切であるが、生活への切り込みが大切な医療が必要であり、加えて生活を切り離れた介護は無く、介護と医療の一体化がとても重要である。

廃用症候群は生活の不活発により起こる全身の心身機能低下であり、高齢者に生じ易く、その改善のためには質の高いリハビリテーションが必要である。またつくられた歩行不能や家事不能の予防が尚一層重要であります。

昨今医療制度改革により在宅医療の充実が叫ばれておりますが、生活機能を重視した在宅における地域リハビリテーション医療の関わりが重要であります。またその中

でリハビリテーション医療の重要さはさらに拡大しつつあります。多職種協働で総合的・包括的にチームにより実践する医療であるが、最近維持期という概念を見直す必要が出てきております。最近維持期リハビリテーションの呼び方を工夫しようという動きが出来てきたわけであり、生活自律期、地域生活期、生活が中心であり、さらに様々な見地からこの事業を継続出来ない場合が多くなったわけであります。これらの現実を踏まえて脳のリハビリテーションについて職員一人一人が理解を深めて、特にかかりつけ医と地域福祉担当者との日頃の連携が重要される必要が大きくなって参ります。これからの課題としては維持期リハビリテーションのあり方を中心としてそれらのステージを検討しながら維持期としては生活立ち上げ期を出発として、生活調整期へと続き在宅医療との大きな支えを頂きながら進めるという先進的な取り組みが紹介され示唆に富むご講演でありました。

(文責 及川 忠人)



■■■■■■ 学術講演会 (櫻井 滋先生) ■■■■■■

■日時/平成21年3月24日(火) 18:45~

■場所/ホテル東日本盛岡 3階 鳳凰の間
座長: 及川 忠人 会長

演題: 『最近の感染症の動向』
— 新型インフルエンザへの対応 —

講師: 岩手医科大学医学部
医療安全管理部感染症対策室長
臨床検査医学講座准教授 櫻井 滋 先生



講師プロフィール

まぐらゐ しげる 先生
櫻井 滋 先生

略 歴

1955年(昭和30年) 岩手県盛岡市生まれ(本籍地: 気仙郡住田町上有住)

学 歴

1974年 私立岩手高等学校 普通科卒業

1981年 私立金沢医科大学 医学部医学科卒業 医学博士

研修歴および職歴

1981年4月 医籍登録 (261374)

1981年4月~ 金沢医科大学胸部心臓血管外科・麻酔科研修医

1983年4月~ 金沢医科大学呼吸器内科学講座 助手

1983年6月~ 沖縄県立中部病院内科呼吸器科・ICU研修

1984年から1986年 国立山中病院内科・市立高岡市民病院内科勤務

1989年4月 金沢医科大学呼吸器内科学講座 講師

1990年5月~ Visiting scholar in University of Washington,
Department of Medicine, Division of Pulmonary and
Intensive Care, (Seattle, USA)

1991年4月~ 金沢医科大学病院呼吸器集中治療室 副部長

1994年6月~ 岩手医科大学医学部 内科学第三講座 講師

1998年4月~ 岩手医科大学附属病院 AIDS/HIV兼結核担当医

1999年4月~ 岩手医科大学附属病院 感染症対策室 選任医

2003年4月~ 岩手医科大学附属病院 感染症対策室 室長

2006年~ 岩手県 新型influenza対策専門委員会 委員

2008年5月1日~ 岩手医科大学医学部 臨床検査医学講座 講師

2008年5月1日~ 岩手県 感染症対策委員会 委員(再任)

2009年1月1日~ 岩手医科大学医学部 臨床検査医学講座 准教授

現在に至る



新型インフルエンザへの対応について

岩手郡医師会 会長 及川 忠人

昨年秋より、岩手県県央保健所、盛岡市保健所を中心に新型インフルエンザへの対応に係わる検討会が開催され、2009年平成21年1月下旬に具体的な盛岡圏域新型インフルエンザ連絡会議が立ち上がりました。その中で、研修部会と体制部会が設定されて、研修部会は岩手医大の桜井先生を中心に、体制部会は盛岡医師会を中心に検討することになりました。

岩手郡医師会では3月24日に岩手医大櫻井准教授をお招きして、新型インフルエンザへの対応についての研修会を開催して120名もの参加がありました。また役員会で検討中でありました、中リスク封じ込めセットを岩手郡医師会会員が運営する診療所な

らびに病院に4月上旬に配布致しました。今回5月15日に国内発生期を迎えて新型インフルエンザへの対応が緊急の課題になりました。改めて新型インフルエンザへの予防的行程の早急な取得と連携体制の整備を郡医師会全体はもちろん一市三町一村それぞれ選出の理事のメンバーを中心として具体的連絡体制を整備するように5月14日開催の拡大総務委員会にて合意しております。

今回の新型インフルエンザは幸いにして弱毒であり、季節型インフルエンザと大きな差異は臨床的に認められないようですが、それぞれの会員諸先生方におかれましては、変化する医療情報に注意の上、万全の体制をおとり頂きますようお願い致します。

■ ■ ■ ■ ■ 特定健診体制への取組の経過 ■ ■ ■ ■ ■

平成20年度の特定健診が終了した昨年秋以降、会員からの要望を調査してさまざまな問題点（改善すべき点）が明らかとなった。それを踏まえて平成21年1月の総務会を中心として改善すべき点を検討し以下の項目に絞り込んでいった。

1. 県内の他の市町村に比して健診料が高すぎるのではないか
2. 検診の項目にヘマトクリット値、血色素量、赤血球数、血糖、HbA1c、クレアチニン、尿酸値、12誘導心電図を追加できないか
3. 国保以外の他保の受診者（特に家族）が少なかったが、その原因は何であったのか（滝沢村を例にとると、国保受診者数2,464人、他保247人と10分の1）
4. 八幡平市、岩手町、葛巻町は20年度は集団検診の形をとったが、都合で受けることができなかった人（特に社保家族）を拾い上げることができるよう滝沢村、雫石町と同じく個別検診を導入できるか

予防医学協会、支払い基金、各市町村担当者を合わせて10数回の検討・交渉を重ねた結果、21年度の特定健診を以下のように実施することで合意した。

「国保」

1. 検診費用単価（基本項目部分）を9,996円から8,145円に下げる。
2. 赤血球数、ヘマトクリット値、ヘモグロビン値、尿酸、クレアチニン、HbA1c、グルコース、12誘導心電図を国保の全員に追加項目として実施する。
その費用を1,525円とする
3. したがって、国保の検診費用単価は8,145円（基本項目）+1,525円（追加項目）

=9670円となる。

（検診費用単価は、9,996円－9,670円＝326円安価になった上に、さらに追加項目を全員に実施することで内容は充実）

4. 各医療機関が予防医学協会に支払う検診の代行手数料は
平成20年度は3,696円であったが
平成21年度は2,697円となる。
（内訳：基本項目検査料1,575円、追加項目貧血検査料231円、追加項目生化学検査料94円、磁気化等処理費用797円）
5. 各医療機関が受け取る検診費用単価は9,670円－2,697円＝6,973円
（平成20年度は9,996円－3,696円＝6,300円であった）

協会健保（旧政府管掌健保）、共済組合等との交渉ではまだ受診者数も少なく健診項目の追加の検討には至らず、まずは健診料を下げることによって受診者の個人負担額を減額することで受診率を上げていくことを今年度の目標とすることとした。

「社保」

1. 平成20年度の単価は9,996円であったが、平成21年度は7,973円に下げる。
2. それによって 受診者の自己負担額は平成20年度4,596円から平成21年度2,573円と減額
3. 追加項目に関しては、今年度は見送りとする
4. 各医療機関が予防医学協会に支払う検診の代行手数料は
平成20年度は3,696円であったが
平成21年度は2,200円となる。
（基本項目検査料1,575円、磁気化等

処理費用625円)

5. 各医療機関が受け取る検診費用単価は
7,973円 - 2,200円 = 5,773円
(平成20年度は9,996円 - 3,696円 =
6,300円)

滝沢村、雫石町はこの合意案に従って個別健診方式で予防医学協会、町役場、村役場、郡医師会との間で集合契約を結び実施する。

八幡平市、葛巻町ではそれぞれの実情を勘案した結果、平成21年度も予防医学協会による集団検診方式を採用することとした。ただし集団検診の受診の機会を逸した人を拾い上げるために個別健診方式も併用することとしたが検体の集配の都合上、健

診代行機関は予防医学協会ではなくそれぞれの医療機関が日常利用している検査会社をお願いすることとした。岩手町は独自の健診事業で輝かしい実績があり、平成20年度とおなじく集団検診方式のみを継続することとした。またこのように郡内の市町村ごとに方法が異なるため特定健診事業を効率的に運用する目的で岩手郡医師会で各市町村ごとに医療機関コードを取得することとした。

まだ改善すべき点はあると思われるが、平成21年度の結果を見ながら今後も検討を重ねていくことにした。会員の先生方には、適宜ご意見、ご要望を寄せていただければ幸いです。

(総務 紺野 敏昭)

エッセイ

■ ■ ■ ■ ■ 新 人 研 修 ■ ■ ■ ■ ■

先日大学病院を訪れた際、真新しい白衣の研修医が対応してくれました。一生懸命に働いている姿を見て、私の初心を思い起こさせてくれました。

私が岩手医大第一内科に入局したのは昭和59年。当時医局員は、100名程の大所帯でした。週一回の医局昼食会では、テーブルに席があるのは、助手以上15名とポリクリの学生で、他の医局員は、部屋の隅で膝の上に弁当を広げ症例検討や抄読会に耳を傾けている格好でした。

入局したての新人は、助教授、講師の下で一内の仕事を学んでいきます。私のオーベンは、当時助教授の佐藤俊一先生（前岩手医大大学長）でした。担当したのは膀胱癌末期の患者さん。毎日の回診でまず診察を終えると、先生はやおら傍らの椅子に腰掛け、漁業関係の仕事をしていたその患者さんと市場の様子、旬の魚の話、釣りの話

し等和やかに談笑し始めます。朝私が一人で回診した時には苦痛でゆがんでいた患者さんの顔が、笑顔と笑い声になり、痛みを感じていないように穏やかに見えました。一人の患者さんを目の前にし、自分の無能さに焦っていた新人の自分にとって、あの回診の光景は今でも鮮明に覚えています。その後地方の地域医療に携わり、現在に至るまで、その時学んだ医療の基本はとても力になっています。

新臨床研修制度が始まり、新人医師の多くが都市の大病院での研修を希望し、大学を離れていく傾向にあります。そのため地方に派遣している医師を大学に戻さざるを得ない状況となり、地域医療の崩壊が始まりました。医局の存在の意義が、改めて見直される時期にきているのではないかと考えられます。「人は人によって育まれる」の言葉を考えつつ良医が増えることを期待します。

(植田 修)

故 佐藤 誠 先生 弔辞 (追悼の言葉)



佐藤 誠先生の訃報に接し、突然のことであり、まさかと驚き予想もしておらず、ただ愕然として、こんなにも早くの旅立ちにとっても残念でなりません。実は先月3月中旬に開催された財団法人みちのく愛隣協会の評議員会でお元気そうな姿で接することができてほっとしていた矢先でございました。神様に召されました佐藤誠先生の安からんことを心より祈り申し上げ、岩手郡医師会会員を代表して一言哀悼の意を述べたいと存じます。

佐藤誠先生と私との出会いは、設立されて間もない昭和41年岩手医大教養部の医学進学過程の2年生の時でございました。当時和田安民先生が教養部長の時代で医学生に対する特別講義の一つ「医学概論」の講義で、アメリカ留学中の佐藤誠先生のお話があるとのことで、アメリカの医療の最先端のお話に啓発され、さらにアメリカでの卒後教育の現状を伺い、目から鱗が落ちる思いが致しました。その講義の最後の中で、我々後輩にむけて、“Nothing is

impossible for you”「貴方にとって不可能なことはない」との言葉を「はなむけ」に残された印象的なご講義でありました。その滞在期間に奥様のご実家までお伺いしてアメリカの卒後研修の現状を教えて頂いたことは貴重な経験であり、学生時代の中で小生が海外医療への目向けさせられたそのショックは大変大きなものでありました。そのとき佐藤先生はアメリカの特別休暇制度で1年間休暇中に盛岡に立ち寄られたとのことでした。岩手医大の我々先輩に、こんな素晴らしい先生がアメリカに留学中でおられることに驚き、興奮と誇りを感じたことが昨日のこのように思い出されます。

それ以後、アメリカ留学からもどられ佐藤誠先生が岩手医大医学部生理学第一講座教授に就任され、やがて定年退官される近くの時期に先生の最終講義を聴きに参り、大変感激して、佐藤先生のような方が病院に居ることも必要であるとおもいました。誠に失礼とは思ったのですが介護老人保健施設希望（のぞみ）の医師としてお勤めい

ただけないかということをお願い致しましたところ、お引き受け下さり、介護老人保健施設希望（のぞみ）の施設長として御赴任頂くことになったわけでありました。

佐藤誠先生は岩手医大卒業後、基礎医学者としての道を歩まれ、現場で医師免許をお使いになる機会がなく、そのまま銀行の金庫の中に医師免許状が保管され、医師免許状は、卒業後約60年後の我々の施設に就職された時がそのきっかけで使い始めたと伺っております。まずはじめられたのが、日常臨床で使用する薬の名前と使用用途の暗記でございました。古ぼけた単語帳とノートに様々な日常臨床で使用する薬の薬効を記載するのが先生の学び方であり、多くの職員方々に感銘を与えました。退職後にもかかわらず、このように患者さんのために勉強し努力する先生が我が施設に居られることの大変重要な意義を感じることがしばしばでありました。

老人保健施設での患者さんとの診療については、流石にご老人の診療は慣れるまでには大変な努力が必要であったと思われまます。それでも、佐藤誠先生は親しく入所者一人一人を大切にされ、懇切丁寧に呼びかけて、本人と家族との面談を楽しみにしておりました。そのような流れを感じながら臨床の大切さを体得しつつ学ぶ先生の心意気と若い情熱に敬服しておりました。そしてそれぞれの入所者の様々な様子を聴き、患者さんとの心の交流が大きな仕事になっていたわけで御座います。先生は医師不足の中にもかかわらず、沢山の入所者の緊急の対応や、その方向づけについて一生懸命対応されその責任感にはとても打たれるものがありました。

また数回、国際リハビリテーション医学

会に発表の機会があり、その抄録作成から発表のスライド作成は発表方法まで、よく夜遅くまで佐藤先生と意見を交換し、英語での発表の御支援とご指導を頂きました。小生はそのような意味では、のぞみと言う社会人大学の学生のような立場で佐藤先生のご指導と学術論文の書き方や発表の仕方をおそわり、とてもラッキーな出会いを頂いたと感謝しております。それが今後出来なくなることはとても淋しいことと思いましたが、自分の自立が必要であるよと佐藤先生が呼びかけているような気がしてなりません。

佐藤先生は国際的に世界のノーベル賞受賞者との交流関係を持たれ、国内での分子薬理部門シナプトロジーの草分けであり有名な指導者であられ、常に学術の最先端のことを勉強するかたわら、サブノートを作り、系統的な医科学研究について学んでおられました。楽しい話が多く、いつも昼食に時間は科学談義や最新の医療等の課題を中心に昼食特別シンポジウムのような様相を示すことが多く今は懐かしい楽しい思い出になりました。

佐藤誠先生はものごとを大きく素直にとらえる、とても正直な人柄の持ち主でありました。偉大な指導者でありまた教育者でありました。約5年前のことになりますが、小生は岩手郡医師会会長に立候補するかどうか迷った時期がありました。臨床に割く時間が少なくなり、病院の経営に多大のマイナスとの危惧する意見とは裏腹に、むしろ郡医師会会長になり地域医療のために尽くすことが、財団法人みちのく愛隣協会および東八幡平病院のためになるのと思うと積極的に小生をいつも励まして頂き今でも感謝しております。

先生がこんなに早く神様のもとに召されることは、とてもとても残念でなりません、もっともってご指導いただきたいことがあったのですが、とても淋しい心がどうしても残ります。佐藤誠先生これまでほんとうに素晴らしいご指導を頂きありがとうございました。先生が残された、神経科学とりハビリテーション医学における様々な考え方、そして先生の間人としての生き方医師としての生き方を忘れず、地域医療を守るためにさらに努力して参りたいと思います。それがこれまでの佐藤先生から頂い

た沢山のご指導への恩がえしであると思います。ほんとうにご苦労様でした。

天上の佐藤誠先生の安からんことを祈り、また奥様の倫子先生そしてご長男の理一郎先生そしてそのお孫さん達の将来に神様の豊かなご加護と見守りを心からお祈り申し上げ、つたない弔辞に替える次第であります。

佐藤誠先生！ さようなら。

2009年4月30日

社団法人岩手郡医師会

会長 及川 忠人

故 佐藤 誠 先生 略歴

学 歴

- 昭和29年8月 岩手医科大学医学部卒業
- 昭和30年4月 実地修練終了（岩手医科大学附属病院）
- 昭和30年8月 医籍登録 第156564号
- 昭和34年10月 医学博士学位授与（岩手医科大学 第3号）

職 歴

- 昭和30年4月 岩手医科大学（生理学講座）助手
- 昭和32年6月 東北大学医学部第二生理学講座へ国内留学
- 昭和33年10月 岩手医科大学（生理学講座）講師
- 昭和33年11月 盛岡短期大学 非常勤講師
- 昭和34年4月 米国オレゴン大学医学部神経外科生理学研究室研究員として留学
- 昭和40年2月 米国オレゴン大学医学部（神経外科生理学）助教授
- 昭和43年2月 米国オレゴン大学医学部（神経外科生理学）准教授
- 昭和60年9月 岩手医科大学医学部（生理学第一講座）教授
- 昭和61年7月 米国オレゴン大学医学部客員教授
- 昭和62年4月 岩手医科大学図書館長就任
- 平成10年3月 停年退職
- 平成10年4月 名誉教授

所属学会

日本神経科学会専門会員。日本放射線影響学会会員。米国ロイヤル ソサエティ 医学会会員。米国生理学会会員。米国生物物理学会会員。米国神経科学会会員。


21年度岩手郡医師会等行事予定

日 時	行 事 名
6月27日(土)	岩手郡医師会第1回通常総会・特別講演会
6月28日(日)	岩手県医師会総会・岩手医学会春季総会
8月4日(火)	第3回総務会
8月18日(火)	第3回役員会
8月23日(日)	第61回岩手県医師会親睦野球大会(紫波郡医師会担当)
9月10日(木)	救急蘇生法研修会(葛巻町)
9月13日(日)	第63回東北医師連合会(福島市)
9月25日(金)	救急医療懇談会
9月27日(日)	岩手県医師会第3回親睦ゴルフ大会(安比CC)
10月6日(火)	第4回総務会
10月3日(土)	郡医主催産業医研修会
10月20日(火)	第4回役員会
11月7日(土)	村民健康講座(八幡平市)
11月28日(土)	臨時総会並びに学術講演会・忘年会
11月29日(日)	岩手医学秋期総会
12月8日(火)	第5回総務会
12月15日(火)	第5回役員会
1月5日(火)	第6回総務会
1月9日(土)	岩手県医師会・岩手県歯科医師会新年交賀会
1月19日(火)	第6回役員会
1月30日(土)	郡医師会第2回通常総会・特別講演会
2月20日(土)	岩手県医師会代議員会

■ ■ ■ ■ ■ 21年度岩手郡医師会 事業計画 ■ ■ ■ ■ ■

サブプライムローンの問題を契機に世界同時不況の嵐が吹き荒れ、さらに国内の自動車産業等の経営を直撃している。加えて昨年の暮れには東京日比谷公園に失職し、住居を失った多数の労働者が、ボランティアの炊き出しや様々な支援を受け、行政を巻き込んだ社会問題に拡大した。我が国は今、将に未曾有の経済的社会的危機の渦中にある。

一方、地域医療崩壊は我が岩手郡にも押し寄せ、昨年11月に県立沼宮内病院の病床削減計画が現実のものとして提出され、病床廃止撤廃の地域住民請願運動に発展し、今後の推移は予断の許さない状況である。さらに国内における地域格差は拡大の様相を呈し、医師不足が顕在化し地域医療体制の確保・維持は我々郡医師会の喫緊の課題である。

また全国各地の救急医療と小児・産科医療の疲弊はさらに進行し、現場の救急医療提供体制がようやく維持されている状況である。さらに国が目指す医師養成数増加は現状の課題を解決するには医師教育枠の拡大等の姑息的手段にとどまり、根本的解決への対策にはほど遠いままであり、卒後研修医制度の抜本的改革についても、改革に

はまだ遠い状況にある。

岩手郡医師会は、地域医療の維持・確保についての現状と課題を直視して、地域医療崩壊阻止への対策を推し進め、地域住民への健康啓発活動を展開する。また進行する少子高齢化社会への対策と生活習慣病予防を目標とした活動等を実施して、保健・医療・福祉の地域医療連携を重視して、生き生きと安心して暮らせる地域社会の構築を目標として次の事業を行う。

- (1) 医の倫理と生命倫理の向上
- (2) 県医師会事業への全面協力
- (3) 医政の強化
- (4) 会員の自浄作用の活性化
- (5) 地域医療の確保・強化
- (6) 生涯教育への実践
- (7) 会員福祉の充実
- (8) 医療経営の適正化
- (9) 保険医療の適正化
- (10) 地域住民の健康啓発教育の充実
- (11) 地域リハビリテーションの啓発と自立支援法への支援
- (12) 介護保険および介護予防への支援と強化
- (13) 地域医療連携活動への支援と強力
- (14) 特定健診事業の多面的検討と支援

■ ■ ■ ■ ■ 21年度岩手郡医師会 運営基本方針 ■ ■ ■ ■ ■

平成21年度は日本医師会代議員会も改選はなく、そのまま唐沢会長の継続のまま3月29日に開催され平成21年度の事業計画等が承認され、各部門の代表質問がなされております。

平成20年度からの懸案であった特定健診については、集合契約の拡大の方向で検討中ですが、今後の受け入れ体制の整備が必要であると思われます。これらの背景も踏まえて、本年度は再度、昨年の運営基本方針を見直しながら、岩手郡医師会の活発化と地域医療崩壊への具体的対応を含めて運営基本方針を確認したいと思う。

1. 各現場地域における地域医療崩壊を防ぐための具体策を検討する
2. 診療所および地域病院との機能連携と役割分担の明確化を推進する
3. 特定健診事業への積極的参加と協力の輪を広げる
4. 勤務医の課題について積極的にとり組んでゆく
5. 広報活動の活発化を推進する
6. 学術集会への参加率を向上させる
7. 各地域における医師会活動への参加協力を推進する

各 担 当 別 事 業 計 画

会 長 及川忠人

副 会 長 篠村達雅・栃内秀彦

総 務 篠村達雅・栃内秀彦・
紺野敏昭・高橋 邦尚

- 1 近隣郡市医師会との連携の充実
- 2 医療情報システム(IT化)の啓発と充実
- 3 災害時医療救護体制の充実
- 4 自浄作用の活性化
- 5 医師会活動への積極的参加の促進
- 6 医療制度改革への対応
- 7 公益法人制度改定への対応
- 8 特定健診事業への対応

地域医療 栃内秀彦・篠村達雅・森 茂雄
遠藤哲夫・植田 修

- 1 医師・看護師不足への対応
- 2 感染症対策新型インフルエンザへの対応と体制構築
- 3 各地域包括支援センター及び地域リハ体制構築への支援
- 4 医療連携と在宅医療の推進
- 5 地域住民への地域医療の啓発

医療保険 佐々木久夫・久保谷康夫

- 1 適正な保険診療への啓発活動の充実
- 2 保険診療への敏速な情報提供
- 3 介護保険・介護予防体制ならびに自立支援法への支援
- 4 関係行政機関との連携の強化

産業保険 森 茂雄・高橋 真

- 1 産業医活動および研修事業の充実
- 2 岩手産業保健推進センターとの連携の充実
- 3 メンタルヘルス事業の充実と地域保健への支援
- 4 産業医実地研修事業の発掘とその拡大
- 5 会員の産業医活動の把握

学校保健 山口淑子・佐々木久夫・
西島康之・藤井 裕

- 1 児童・生徒のからだの健康維持
学校健診の充実、予防・事後指導の推進
- 2 児童・生徒のこころの健康維持
人の命の大切さ、他人のいたみ、いじめ、不登校に対する積極的な取り組み
- 3 思春期保健、性教育の積極的取り組み
- 4 地域学校保健会の活性化

5 就学前児童に対する保健活動の推進

6 市町村を越えた学校保健への連携協力(新規)

勤務医 高橋 明・佐藤芳行・
三浦義明・宮杜牧人

- 1 新研修医制度への支援と対応
- 2 地域に於ける勤務医とかかりつけ医との連携体制の充実・強化
- 3 勤務医に魅力ある医師会活動の実施
- 4 勤務医の就業環境実態の課題とその把握

広 報 紺野敏昭・山口淑子・植田 修
小豆嶋純子・塚谷栄紀

- 1 積極的な広報活動の推進と広報委員会活動の充実
- 2 岩手医報の内容吟味および充実
- 3 地域住民への広報活動の充実
- 4 広報の位置づけならびに編集協力者の拡大

生涯教育 遠藤哲夫・栃内秀彦

- 1 生涯教育制度への啓発および向上
- 2 生涯教育研修への積極的参加の促進
- 3 かかりつけ医へのホスピスケアならびにリハビリテーション啓発活動の充実

健康教育 高橋邦尚・高橋 明・久保谷康夫

- 1 市町村民健康講座の実施
- 2 健康啓発活動および予防活動の積極的参加の推進
- 3 スポーツ医学の啓発と地域スポーツ活動への支援
- 4 メタボリックシンドロームへの啓発活動の推進

診療所 篠村達雅・高橋邦尚・高橋 真

- 1 総合支援診療所の普及
- 2 かかりつけ医と病院・診療所との連携の強化
- 3 診療所機能の介護保険ならびに保健福祉との連携強化

医師連盟 篠村達雅・栃内秀彦
佐々木久夫・西島康之

- 1 各選挙への協力・対応
- 2 各地域での医師会活動の活発化
- 3 国民皆保険制度堅持への啓発
- 4 地域医療崩壊を防ぐ具体的方向の検討
- 5 医政への啓発活動の推進

TOPICS

新規会員紹介



入会のご挨拶

東八幡平病院 鈴木 俊彦

岩手郡医師会の先生方には、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

この度、岩手郡医師会に入会させていただき、誠に光栄に存じます。私は、昭和41年岩手医大を卒業後、インターン、放射線科医局そして盛岡日赤を経て、平成6年に行政（保健所）に転じ、この3月県央保健所を最後に退職したところです。保健所勤務中は、医師会の先生方には、大変お世話になり、特に最後の4年間は、岩手郡医師会の先生方には、同じ医療圈の中で、保健所事業に多大なご支援を頂き、改めて感謝申し上げます。病院勤務も早2ヶ月になりますが、久しく医療の現場から離れており、不安もありますが、患者さんと向い合う時、医師として行政とは違った緊張感と新鮮さを感じる次第です。これまでの経験を活かし、地域医療に少しでもお役に立てればと思っておりますので、医師会の先生方のご指導ご鞭撻をお願い申し上げ、入会のご挨拶といたします。



雑感

東八幡平病院 泉本 浩史

私は、生まれは愛媛県、昭和56年に岡山大学を卒業し、当院藤井副院長のお世話になりまして、5月より東八幡平病院心臓血管外科に就職致しました。専門は心臓外科ですが、老人の方とお話するのが好きで楽しい時間を過ごしています。

趣味はこれと言って無いのが残念ですが、ベランダ農園で野菜や花を作ったり（市場で買ったほうがはるかに安いので超高価野菜になっています）、小泉竹中の新自由主義経済政策や何でもグローバリゼーションに反対していますので経済や政治の本を読んだり、英語の学会誌を読んだりしています。いま手古摺って読んでいるのは、リサ・ランドールの5次元世界に関する物理学の入門書です。

兎角この社会は、マニュアル・ガイドラインが幅を利かせていますが、吾々はそんな平面的な治療方法でなく、心の籠もった3次元・4次元的な治療を目指したいものです。宜しくご鞭撻のほどお願いします。



ご挨拶

栃内第二病院 脳神経外科 荒井 啓史

本年4月1日より栃内第二病院脳神経外科科長として勤務しております。この紙面をお借りしまして、簡単ですが自己紹介をさせていただきます。

私は平成元年岩手医科大学医学部を卒業、同脳神経外科学講座へ入局し、本年で医師として21年目になります。私の入局当時の脳神経外科教授は金谷春之先生（現岩手医科大学名誉教授）でございました。金谷先生の御退官後は小川彰前教授（現岩手医科大学学長）、小笠原邦昭現教授の下で計7年間、医局長を務めさせていただきました。同教室の歴代教授は皆「脳卒中外科治療」の大家ですので、当然教室の研究も「脳卒中」が中心でしたが、へそ曲がりな私は学位論文も臨床での専門も脳腫瘍でした。これからの仕事の内容は大学病院時代とは大分変わりますが、リハビリテーションの勉強をさせていただく傍ら、脳卒中の2次予防等の地域医療に貢献したいと考えておりますので、宜しくお願い致します。



最近思うこと

いわてリハビリテーションセンター 村田 深雪

「脳神経外科は、急性期から慢性期まで幅広く診られる科である」
これは私が入局する際、恩師の小川彰先生が仰った言葉です。その時はなんとなく分かった気になった程度で、いつか自分もその道に進めたら、と漠然と考えていました。

あれから十数年。急性期の病棟担当から回復期の病院へと自分のフィールドが移りました。

急性期あるいは大きな病院では見えなかったものが、今はいろいろ見えてきます。生命をとりとめたその後に、患者さん、ご家族がどうなっているのか、何が問題なのか。急性期に携わっていた時の自分には、何が足りなかったのか、どうすれば良かったのか、どんな言葉をかけることが必要だったのか。少しだけ時間に余裕が出て来た今日この頃、毎日が反省です。離れてみて初めてわかること、本当に多いものです。

今後も微力ながら患者さんたちのお役に立ちたいと思っております。

第61回岩手県医師会親睦野球大会の参加について

今年も、恒例の親睦野球大会が来る8月23日(日)紫波町(紫波運動公園野球場)で開催されます。

我が岩手郡医師会チームは、昨年度は雨のためジャンケン大会となり、惜しくも1回戦敗退となりました。今年度は実力で1回戦を突破したいと思います。皆様応援お願いします。

日 時：平成21年 8月23日(日)
 受付：午前7時30分まで
 主将会議：午前7時40分
 開会式：午前7時50分
 開会式：午前7時50分
 試合開始：午前9時00分より各会場
 場 所：紫波運動公園野球場を主会場に
 8会場

フレー! フレー!
 岩手郡!!



第61回岩手県医師会親睦野球大会選手名簿 (岩手郡医師会)

No.	選手氏名	背番号	ポジション	所 属	No.	選手氏名	背番号	ポジション	所 属
1	高橋牧之介		総 監 督	高橋医院	13	遠藤 哲夫	24	選 手	遠藤医院
2	及川 忠人	8	監 督	東八幡平病院	14	大森 浩明	16	選 手	雫石大森クリニック
3	植田 修	30	主 将	植田内科消化器科	15	高橋 邦尚	80	選 手	ゆとりが丘クリニック
4	嶋 信	15	選 手	国保西根病院	16	高橋 真	4	選 手	高橋内科胃腸科クリニック
5	久保谷康夫	5	選 手	鶯宿温泉病院	17	塚谷 栄紀	54	選 手	塚谷医院
6	石田 薫	51	選 手	鶯宿温泉病院	18	土谷 正彦	72	選 手	平館クリニック
7	木村 秀孝	11	選 手	木村内科クリニック	19	篠村 達雅	99	選 手	篠村医院
8	大津 友見	1	選 手	県立沼宮内病院	20	栃内 秀彦	60	選 手	栃内第二病院
9	立本 仁	55	選 手	立本整形外科	21	上原 充郎	17	選 手	上原小児科医院
10	金井 猛	91	選 手	金井耳鼻咽喉科	22	佐々木久夫		選 手	佐々木医院
11	北上 明	45	選 手	北上脳神経外科クリニック	23	西島 康之	77	選 手	西島医院
12	金森 一郎	10	選 手	かなもり神経内科クリニック					

■ ■ ■ ■ ■ 会員の入会・退会・異動等 ■ ■ ■ ■ ■

【入会】

入会月日	所属施設名	氏名	年齢	区分	備考
4月1日	栃内第二病院	荒井啓史	47	B	岩手医大医師会より
4月1日	東八幡平病院	鈴木俊彦	68	B	盛岡市医師会より
4月1日	いわてリハビリテーションセンター	村田深雪	41	B	新規会員
5月1日	東八幡平病院	泉本浩史	52	B	

【退会】

入会月日	所属施設名	氏名	備考
1月1日	谷藤内科医院	谷藤一生	閉院
4月27日	介護老健(希望)	佐藤誠	4/27死亡退会
5月31日	栃内第二病院	桑田知之	盛岡市医師会へ

みんなの **いわて** を
医協

ご利用ねがいます

医療用品カタログ通販 5,000品目満載 最大89%引き

医用印刷物・医療機器・医療事務機器・衛生材料等々・保険事業・医療廃棄物処理事業(収集から各種報告書作成まで)・福利厚生事業・労働保険事務代行業

TEL.019-626-3880

購買専用フリーダイヤル **0120-054-222**

FAX.019-626-3883

URL <http://www.ginga.or.jp/isikyoo>

E-mail isikyoo@rose.ocn.ne.jp



編 集 後 記

新型インフルエンザに追われた数ヶ月でした。5月16日から17日にかけて第54回日本女医会定時総会が大阪市で開催され、出席してきました。

1日目はオプションの宝塚歌劇鑑賞、そして懇親会に参加しました。

2日目、総会議事に続き2人の女医さんから講演をいただきました。お一人目は九州大学理事・副学長の永田祥代先生で「「まさかの坂」をこえて—多くの人との出会い」という題でした。「人生には3つの坂がある。上り坂 下り坂 そして3つめは「まさか」の坂である。昔から女性には周りと違ったことをすると、この「まさか」がついて回る。」と外科医、管理職そしてお母様の介護をしている娘などご自分の経験を交えながらのお話でした。楽しく笑いも交え私の女医としての生活とダブルらせながら、そしてこれからの女医への支援について考えさせられました。お二人目の国際女医会会長の平敷淳子先生はオ

ランダからの帰国直後、関西空港から直行という忙しさの中での講演でした。空港での検問？あったのでしょうか。

という2日間でしたが、この時大阪で新型インフルエンザ発生が始まりつつあった時でした。しかし宝塚でも大阪駅でも空港でもマスク姿はほとんど見かけられませんでした。翌日のテレビでは多くのマスク姿が見られたのはあの大阪でした。私がインフルエンザを持ってきたとなると大変と1週間がっちりマスクをして診療しました。 (山口淑子)

しゅうら心
なくした妻は
ポーニョポーニョ

(サラリーマン川柳第1位)

岩手郡医報：No.92／2009年6月発行
発 行：社団法人 岩手郡医師会
発行責任者：岩手郡医師会会長 及川 忠人
事 務 局：〒028-7303 八幡平市柏台二丁目8番2号東八幡平病院内
TEL 0195-78-2607 FAX 0195-78-2555
<http://www.iwatgun-med.or.jp>
制 作：社団法人 岩手郡医師会広報部